

平成28年10月1日

## 学校関係者評価報告書

学校法人南京都学園 京都福祉専門学校 学校関係者評価委員会は下記のとおり「学校関係者評価」を実施したので、これを報告いたします。

開催日時 平成28年9月15日（木）15:00～16:30

出席者	委員長	京都福祉専門学校	校長	丸岡晃嗣
	委員	宇治さわらび園	施設長	上田千稔
	委員	京都府視覚障害者協会八幡支部	副支部長	満若好美
	委員	京都廣学館高等学校	教頭	塩見浩二
	委員	京都動物専門学校	副校長	大塚浩也
	委員	京都福祉専門学校	副校長・事務長	平尾克英（書記）
	委員	京都福祉専門学校	教務・学科主任	藤田佳子
	委員	京都福祉専門学校	事務・入試主任	高畑みゆき

校長以下8名出席

議案	評価・意見	対応
1. 教育課程の見直しについて	介護福祉士の国家試験導入による対策として、現在も対策講座等を設け実施しているところであるが、さらに現行の教育課程を見直し、カリキュラムとして国家試験に対応できるものを作り上げていくことが求められている。	平成30年の国家試験に向けて、全員合格を目指す。通常の前期後期試験以外に、日々の授業の中で小テスト等を実施し、着実に力を着けていけるよう授業内容の工夫を行っていく。
2. 実務者研修・留学生の受入について	現在、介護福祉士資格取得のためのルートは様々であるが、養成校としての意味を今一度考え、本校は2年間で介護（福祉）のプロを育成し、全員、福祉の現場に送り出し、国家及び社会に貢献する人材を育成することが目的である。	本来、介護は誰にでもできるものであるが、本校ではより質の高い介護福祉士を養成するために、教科は勿論、介護する人材のメンタル強化なくして十分なケアはできないため、人間教育まで行う。

	<p>留学生の受入については、議論をさらに進め、慎重に検討する必要がある。</p> <p>現在の日本では質の高い介護が求められている一方で、人材不足問題も深刻である。この相反する状況下の中でどのように判断していくのが難しいところである。</p>	<p>留学生（インドネシア・ベトナム等）については、最も問題となるのが文化の違いではないかと考える。</p> <p>日本人の常識・感覚が通じないというようなことが多発すると混乱が生じることになる。総合的な受入態勢を充分に行うことが最優先である。</p>
<p>3. 養成校の定員充足状況と入学生・卒業生の質について</p>	<p>入学生の定員充足は年々厳しいものがある。しかし、介護福祉の仕事に興味がある若い人はいるはずである。</p> <p>また、2020年には4人に1人が認知症だと言われており、もはや一刻の猶予もないくらいである。自宅での介護、核家族化で老々介護、施設においても人材不足が何年も続いており深刻な問題となっている。</p> <p>若い力を今一度復活させるために、様々な広報活動を実施し、介護福祉を仕事として、やり甲斐のあるものだということをアピールし続けることが大切ではないか。</p>	<p>介護福祉士も医療的ケアの導入により、さらに質が求められる。実際、施設では、夜間に喀痰吸飲を実施しなければならないときがある。養成校で経験を積んだ人材でさえ最初は躊躇するほどの行為である。しかし、人の命が罹っているためとまどっている場合ではない。</p> <p>人の人生をサポートする対人援助職、介護福祉士は責任重大であり、必要不可欠な存在である。だからやり甲斐があるのだということを広報し、決して見ために華やかな仕事ではないけれど、中に入れば入るほど「華やかさ」や「やり甲斐」が見えてくる。</p> <p>養成校としての役割を引き続き果たしていきたいと考える。</p>

以上